あさみ会報

朝見まちづくり協議会
あさみ会報編集部
発行責任者・鈴木三千夫
松阪市大宮田町 209-4
朝見地区市民センター内
電話 0598-52.0007
2010.5.28 発行
第 23 号

《朝見まちづくり協議会５周年を迎え》

第５回定期総会を開催！

平成２２年度・会則の変更・事業・予算等を承認

まちづくりを全員でと理事会の発足・三期目の新役員体制を発表

「まちづくりは人づくり」　小牧　豊文　松阪市市政戦略部長

開会挨拶

会長　田村　正

こんにちは、今日は大変お忙しい中、五回目の朝見まちづくり協議会の総会にお出かけを頂きまして誠にありがとうございます。また、来賓の方々お忙しい中来て頂きまして本当にありがとうございます。第５回目を迎えました。そして皆様のおかげを持ちまして、色々な行事が無事に出来ましたことに対しまして厚く御礼申し上げます。朝見のそれぞれの事業は、地域の色々なことに事に対しまして色々やって来ました。これで五回目を迎えるんですが、その中でも、色々な要件がございますけれども、なんとか無事に終了させて頂くことが出来ました本当にありがとうございます。色々と金の問題で日本の国は大変な借金をしているということで、８８６兆円とか大変な合計の借金があると一人当たり８００万円位になるというようなことと、松阪市も大変厳しい財政で借金もして、そんな状況の中でこれからの「まちづくり」をどういう風にすればいいのかと思っています。国からの援助、県からの援助とか、それから松阪市からの援助も当然ですけど、そういう金の面が大変これから厳しくなってくるんではないかなと思います。その中で地域はどのようにして行くのか、というようなことで考えてみますと地域で出来ることは地域でやって行こうと、それから松阪市は松阪市で出来ることはやって行こうということで、これから事業は進めている訳でございますけども、これから朝見、特に高齢化が進んで子ども段々少なくなって、そういうことを考えてみれば、この「まちづくり」をどうしてやっていくか、これはこれからの課題ではないかなと思います。松阪市も今の山中市長の言われることは２年以内に４３地区に対してまちづくりを立ち上げようと、色んな事を背景に住民の方々自ら「まちづくり」に取り組まなければ、決して世の中うまく行かないんではないかな、そういう思いでございます。今年も色々、予算書もございますが、色々検討して頂きまして、皆さんの本当の意見を聞かして頂いて、これからまちづくりを進めて行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。本当に今日はありがとうございました。よろしくお願いします。

来賓あいさつ

松阪市市政戦略部長
小牧　豊文

皆様こんにちは、市政戦略部長の小牧でございます。本来でございますと、市長が御挨拶申し上げるのが本意でございますけども、恐縮でございますが私が代わりに、御挨拶させて頂きますことをお許し願いたいと思います。平素は松阪市行政全般に、色々な角度からご支援ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。そして、今回の総会の開催、本当におめでとうございます。現在、松阪市におきましては住民協議会が１３地区で設立されております。その中でも、朝見地区におかれましては松阪市では２番目、旧松阪市では１番目ということで、いち早く取り組んで頂いたモデル地区として、また、先導的な役割を果たして頂いておることに、心から感謝申し上げる次第でございます。住民協議会の意図していることにつきましては、本日の総会要綱にも載っておりますように、一つは『自ら考え立ち向かうまちづくり』。つまり、自分たちの地域は自分たちで考え、そして、取り組んで行くんだという姿勢。つまり、自立していくんだという「まちづくり」。二つ目には『地域の声が反映するまちづくり』とあります。このことは、地域に多様な価値観の方々がいますので、色々な方々の声を聞きながら、そして、この中から地域で出来ることから、一つひとつやっていこうよ。そして、新たな結集力を積んでいくこと。三つ目は『行政と協働し、よりよい地域を創造するまちづくり』。地域には色々なことがあるけども、地域でできることと行政がやるべきこと、そういった事をしっかりと振り分けしながら、お互いが役割分担を持って取り組んでいく住民と行政が協働した「まちづくり」。こういった「まちづくり」に取り組んで頂いているところであります。そういった中で、朝見地区におきましては、田村会長からもご報告ありましたけれども、防災、防犯、福祉、環境、青少年育成と五つの分野の様々な角度から活動をされてみえるわけでございますが、取り分け、その中でも防災には、地域ぐるみで鋭意活躍されていることをお聞きしまして、そういう行動につきまして、この場をお借りして感謝をさせて頂く次第でございます。又、田村会長が今日の挨拶の中で言われましたけども、現在、松阪市では市長が先頭に立って、これから２年間で地域全体に住民協議会を立ち上げていくんだとの、強い姿勢で週２回から３回程度、毎晩各地域へお邪魔して、その説明をさせて頂いているところでございます。その中で朝見地区の活動につきまして、逐次色々な活動を紹介させて頂いております。しかし、「まちづくり」におきましては、皆様ご存じのように終わりのないハードルを越えていかなくてはならない。又、ハードルを幾つも越えて行かねばならない、終わりのない旅を続けるのが「まちづくり」だと思っておりますし、「まちづくり」は「人づくり」だと思っております。今後、情報社会の中にあって、皆様方と今一度考え直していかなければならないことは、心と心の通い合い、心と心の支え合いであり、心と心の伝達そういったものをもう一度培っていく、そういったところに「まちづくり」の原点があるのだろうと思っております。そういった意味でも先導的な役割を果たして頂いている朝見地区が、益々、今後発展して頂くことを心からご祈念申し上げるとともに、今日此処にご臨席の皆様方のご健勝を心からご祈念いたしまして、簡単ではございますけども、お祝いの挨拶をさせて頂きます。（要旨抜粋）

御来賓あいさつ

森本　哲生（衆議院議員）
田村　憲久（衆議院議員）
田中　祐治（市議会議員）

←議長席　総会の様子→

平成２２年度朝見地区自治連合会の皆様

①住民協議会事務長会

平成22年2月24日13時30分より市役所5階会議室で事務長会を開催した。住民協議会間の連携強化を図る準備段階として事務長会に代表が集った。この4年間で「まちづくり」を進める過程に於いて、沢山の課題が生まれてくる。「まちづくり」の問題意識が生まれることは地域に広がっている証拠である。それぞれの住民協議会の活動を尊重しながら、連携を図り情報交換やネットワークを強化することにより大きな「まちづくり」の動きが起こる。初の事務長会は、12項目の議題にわたって意見交換が行われた。話し合えば話し合うほど、意見は広がり深まった議論が出来た。それぞれの住民協議会の掲げる理念の元「まちづくり」議論が行われたことは、新たな地域マネッジメントの試みとなる。住民協議会自から「まちづくり」のネットワークの構築は今後の大きな推進力となる。会を重ねることによって「まちづくり」は、遥かに豊かな住民協議会を育てる事となる。

（写真・第2回事務長会）

②市長を囲んで懇談会

平成22年2月16日（火）朝9時から開催。他地域からの参加者もあり約60名が参加、意見交換には沢山の発言があった。はじめに、山中　光茂市長の開催の挨拶のあと、まちづくりについての取り組みをスライドにて上映。その後、市長を中心に問答方式で意見交換が行われた。意見の①地区市民センターの在り方。②公民館の在り方。③まちづくりのおける協働とは。④住民協議会設立後の行政の対応の在り方。⑤自治会と住民協議会の関係性。⑥市の文化意識の在り方。⑦提案方式にどこまで対応できるか。地区の活動に若者の参加を。など、真摯な意見交換会となった。当地区は住民協議会が設立され4年が経ち、まちづくりを実際に行ってきた事例に基づいた、市民懇談会となり双方にとって有意義な懇談となった。平成24年までの活動の在り方、行政のサポートの在り方など活発に行いたかったが、時間の関係で残念でした！連絡協議会や行政との意見交換会を通して今後のまちづくりを模索して行きたい

③「あさみ会報」展

「あさみ会報」は住民の皆さんと一緒に「まちづくり」をしようと発刊されました。自治会が中心となって設立に向けて、準備を進める様子を記事にしました。なぜ今「まちづくり」が必要なのか？自治会や公民館、老人会など既存団体と、どのように活動して行くのか？組織体系はどうするか？会則はどのように定めていくのか？など、設立への動きを住民の皆さんへリアルタイムでお知らせしようと作られました。期間平成22年3月15日（月）～4月3日（土）会場　松阪市市民活動センター（旧カリヨンビル3階）展示コーナー開催しました。

①住民協議会事務長会を開催・まちづくりの連携を進める連絡会議。
②山中光茂市長を囲んで市民懇談会・住民主体のまちづくりを・・。
③地域のみんなが参加する住民協議会の活動を報道する機関紙「あさみ会報」展を開催！
④「おやじの料理教室＝たこ焼き」手軽に出来る適当レシピ！美味しさも素朴な味！
⑤念願だった危険な通学路フェンスを住民協議会が補修：協働の精神で、出来る事をやろう！
⑥捕獲していたさかなを放流！昨年１０月渇水期の河川から救出した「さかな」放流！
⑦企画推進委員会の企画『朝田寺牡丹と田楽販売！』大好評で牡丹と田楽を堪能する。

④おやじの料理教室

平成21年3月11日19時より開始。今回は簡単に出来て美味しいタコ焼きに挑戦！最近は「たこ焼き」がブームとなっています。たこ焼き粉も販売されるなど、誰もが手軽にできます。具もタコにこだわらず、好みのものを入れて「変わりたこ焼き」や自分のオリジナルたこ焼き。タレも、こだわらなければ色んな味が創作できます。今回親父の料理教室では、小麦粉と米粉を使いました。

⑤協働・通学路のフェンスを修理

現在、農業幹線水路に並行して通学路として活用されている。設置より数十年数が経っているため、フェンスが大きく破れたりして転落の危険がある。地元の人からも、流れも強く底には苔も生え捕まる所もなく大変危険と言われる。数年来修理を要望してきたが・・・責任の所在が明らかにされず修理が実現しなかった。これ以上、放置はできないと住民協議会が中心となって市に補修を要請する。幾度となく市と打ち合わせの結果、子どもたちの命を守る事を最優先。今できることで最善の努力をしようと双方の努力で実現の運びとなった。田植えの時期を目前に、水量が増えるまでに危険を回避しようとこの時期に行う。住民協議会が中心となって、3月14日と27日修理を行った。市民懇談会で山中市長が語る「地域で出来ることは地域の力で・」との、まちづくり活動である。住民と行政が力を合わせて出来た、安全な通学路づくりとなった。

⑥救出していた「さかな」を放流する。

平成22年5月17日（月）9時45分　朝見小学校付近の河川にて放流式。昨年10月渇水期に1～2年生が救出作戦を行い、捕獲した魚を校庭の池に保護。朝見地区は、農作業が終わる秋には、河川の水が止まり残された生物（魚類等）は、水鳥の餌になってしまうのは「かわいそう」とさかな救出作戦を実行。朝見まちづくり協議会が朝見小学校に協力を求め、児童と一緒に取り組んだ。今回は、本年5月に捕獲している「さかな」を、7か月たった校庭の池の「さかな」を水量の増えた農業河川に放流した。学校の横を流れる河川に、昨年2年生だった児童が3年生となって放流を行った。

全員が懐かしく校庭の池に入り、一匹づつ、バケツに入れる。その後、現地の河川まで歩いて移動した。昔ながらの河川に入り、丁寧に放流をする。元気に河川に戻って行く、上流に元気に泳ぐ「さかな」懐かしそうに、川の流れに身をまかす「さかな」付近を珍しそうに泳ぐ「さかな」子ども達は、元気でね！と見送った！元気に泳いでいく魚に安心したのか、みんなの笑顔が輝いていた。今後は校庭の池を整備しなおし、秋の渇水期に「さかな救出作戦」が行われる予定。子どもたちには、自分たちの住む地区の自然と生物を守ること。自然観察の機会となり地域の自然を満喫することとなった。

⑦企画推進委員会

朝田寺牡丹とあさみ田楽

4月24日25日と朝田寺さんのご協力を得て、朝見まちづくり協議会「あさみ田楽」「農産物・お米」の販売をしました。牡丹の見ごろと天候に恵まれ、盛大に開催をする事ができました。近隣はもとより、県外からも沢山の方が見学に来られました。10年ぶりにまちづくりが挑戦した「あさみ田楽」も好評販売をすることが出来ました。住民協議会設立に伴い、地区の展望やこれからの取り組みを協議してきた。その中から今回、世代間で出来る「まちづくり」を・・と60歳世代が行動を起こす。牡丹の開花時期に合わせ、4月24日（土）25日（日）の二日間販売。《あさみ田楽》朝田町や立田町には、いつの頃からか分からないが、4月になると、各班（村内がいくつかの班にわかれている）毎に、「豆腐焼き」と称して、木の芽田楽を楽しむ風習があった。《農産物の販売「こだわりのコシヒカリ」販売・予約》朝見地区は、昔から土地、水に恵まれ県下有数の穀倉地帯。同時に、農家が手塩にかけた、こだわりのコシヒカリ（朝見産＝溝田幸生）も販売された。

編集後記

全ての行事を載せることができませんでした。あしからず！